



持続可能な木材生産を目指す森林管理と 天然林の動態の研究

生物資源科学部 准教授 高橋 絵里奈

高橋研究室では、人工林の密度管理に関する研究と天然林の動態に関する研究を行ってきました。人工林では、吉野林業地の高品質大径材生産林の密度管理手法の解明、智頭林業地の伐期延長林の実態解明に取り組んできました。これらの林業地は**100年生以上**の人工林が存在し、持続可能な木材生産と人工林管理を実践してきた林業地になります。その手法を熟練技術者個人の名人芸ではなく、みんなが真似できる技術に高めるのが研究の目標です。また、日本には現在手入れ不足の人工林が多く存在します。三瓶演習林、隠岐の島町等で陽樹冠や現存量の調査、聞き取り調査を行い、間伐遅れの人工林の管理指針や低密度植栽地の初期造林の課題を検討しました。これらは今後の日本の森林管理をより良くするための研究です。天然林では、北海道道東地方でエゾシカが森林に与える影響を継続調査してきました。**20年間**調査してもまだまだ少ししか変化がわかりません。北海道の天然林がエゾシカの影響があることで、今後どのような姿に変貌するか、息の長い研究ですが、今後も楽しみに調査をしていきます。

